

# ペルソナ B

感心、ものづくりの原点を探る旅

創意工夫に挑む絹産業の技術物語

中堅製造業の部長が、新入社員たちを連れて、もの作り日本の技術開発の原点を探る旅に行く。



ビジネスマンの群れ・・・。  
巨大なビルが立ち並ぶ大都会。  
高速道路を走る自動車。東京湾沿いの工場群。  
新幹線が走り抜ける・・・  
さらに、ものづくりをする技術者の姿・・・。

経済大国日本。その根底にあるのは、世界に誇るものづくりの技術力だ。

富岡周辺の地図をコピーしている女性社員が、出来たコピーを部長のデスクへ持って行く。

女性社員「部長、今度の研修の地図です」

部長に渡す。

デスクの上の「ものづくり研修」と書かれた書類の束がある。

女性社員「今年の『ものづくり研修』は、世界絹遺産なんですね」

近くの若手社員たちも集まって来る。

部長 「ああ、生糸作りのために色々と工夫をしたことを見てみようと思ったんだ」  
社員1 「生糸？」  
部長 「『殖産興業』聞いたことあるだろ。明治維新後、国を富ませるために行った政策は、生糸の海外輸出だった。上質な生糸の大量生産に力を注いだのが、上州武州の人たちだ」  
社長2 「近代化っていったら『重工業』じゃないんですか」  
部長 「鉄を作るにも、予算が必要だ。その資金作りに一役買ったのが、生糸、つまり絹産業だったんだよ」  
社員3 「へえ、面白そうですね」  
部長 「生産性を上げるために、彼らは色々な工夫をした。ここに日本人特有のものづくりの原点があるといえる」  
社員4 「なるほど、面白そうだなあ」  
部長 「予定は出来てるのかね」  
女性社員 「はい、スタートは深谷の渋沢栄一記念館からでいいですね」

スケジュール表を皆に配る。  
スケジュール表を眺める皆の目が、好奇心に輝く・・・。  
そこに印刷されている富岡製糸場の写真。

その扉にズームイン！

渋沢栄一の写真。  
渋沢栄一記念館に到着する一行。  
長身大の小柄なパネルに驚く社員たち。



部長 「現在の深谷出身の渋沢栄一は、日本の近代化に不可欠な金融政策を確立させ、銀行を創設した」

・・・など彼の偉業についての話し・・・。

部長 「中でも、いち早く生糸生産に注目した。その一つが、富岡製糸場だ」

富岡製糸場、特に繰糸機械に興味津津。  
その技術開発の説明を受けて感心する。



部長 「この機械導入により、生産性が驚異的にアップしたんだ」

その仕組みの説明を受ける。

繰糸機の技術開発について。

その後の発展の写真など……。日本を代表する企業の魁となった……。など。

部長 「煉瓦作りにも、地元人が一役買ったんだ」

日本人に寄る煉瓦作り開発について……。



さらに、  
養蚕技術などを視察する。

高山社の建物の工夫など。

田島弥平旧宅の仕組みなど……。

荒船風穴では、自然を生かした蚕種の保存法に感動！



社員たち「この地域の人々は、様々な技術を開発して、生糸生産に携わっていたんですね」

部長 「まだまだ、それだけではなかったんだよ」

\* その他、紹介する場所や技術などを廻る。

部長 「この地域の人々の創意工夫の精神は、日本人のものづくりの原点。次々と新技術を開発していった」

\* 明治期における産業革命の写真を列記する。

感心する社員たちのアップ・・・

社員たち「(それぞれの感想一言ずつ)

- ・日本の近代化の原点がここにあったなんて、驚きだ・・・
- ・地道な努力で技術開発するなんて、素晴らしい・・・
- ・当時の人々のチャレンジ精神に脱帽・・・





そして・・・

研修を終えた彼らは、会社に戻って、感想文を提出。

彼らの体験レポートの文面

- ・世界に肩を並べる日本の出発点が、ここにあった。
- ・ものづくり日本の原点は上州武州だったことに、驚きました。
- ・今再び、この地で生きた人々の、逞しい精神にふれることは、未来の日本にとって大切なことだと実感した・・・。

体験レポートを読む部長の、満足そうな笑顔。

部長 「よし、来年もまた、この地で研修だ！！」





おわり